

あそぶ、まなぶ、いきる。

山と溪谷社

An impress Group Company

各 位

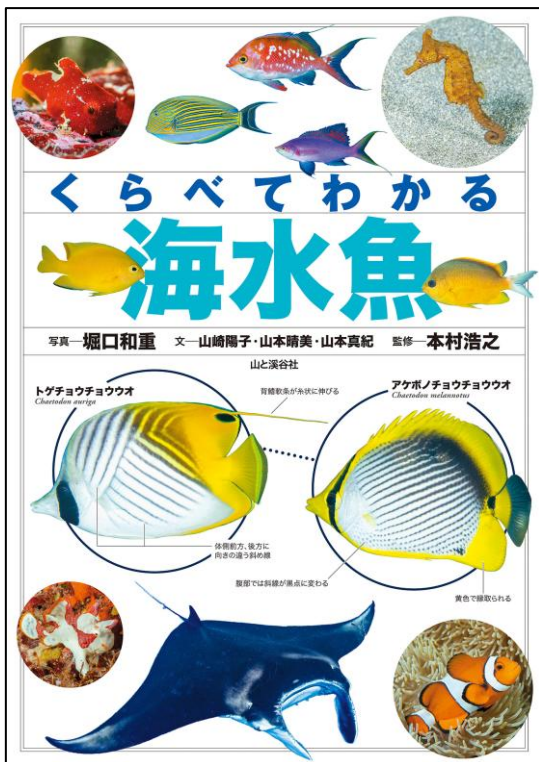
2026年7月7日

株式会社 山と溪谷社

<https://www.yamakei.co.jp/>

日本近海で見られる海水魚を見分けられる！
大好評の『くらべてわかる図鑑』シリーズに、待望の「海水魚」が登場！

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、2026年7月7日に『くらべてわかる海水魚』を刊行いたしました。



ダイビングやシュノーケリング、磯遊びや海釣りなどで出会う海水魚を見分けられる『くらべてわかる海水魚』が登場！

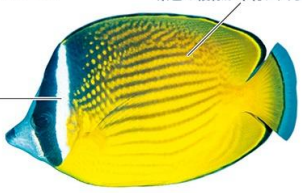
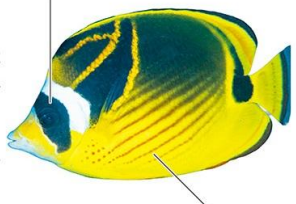
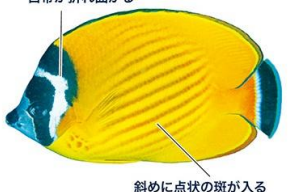

「ダイビングで見かけたあの魚、なんて名前だっけ…？」

「ログブックに魚の名前を書こうと思ったけど、図鑑をみてもどの魚か分からなかった…」

「ガイドさんが教えてくれたクマノミやスズメダイの違いを自分でも見分けられるようになりたい！」

そんなお悩みを『くらべてわかる海水魚』が一気に解決！

■ 本書の4つの大特徴

<p>チョウチョウウオ <i>Chaetodon auripes</i></p> <p>約10°Cの低水温にも耐えられ、伊豆半島沿岸でも普通に見られる。 ● 本州中部以南 ● 約20cm</p> <p>眼の上を通る黒い帯に沿って入る白帯</p>  <p>茶色の縦線が平行に入る</p>	<p>チョウハン <i>Chaetodon lumula</i></p> <p>伊豆半島などでもよく見られる。成魚は単独またはペアで見られ、ときに群れをつくる。 ● 南日本の太平洋岸、琉球列島 ● 約20cm</p> <p>眼の周りの黒い帯が太くて短い</p>  <p>斜めの線が途中で切れる</p>
<p>ツキチョウチョウウオ <i>Chaetodon wiebelsi</i></p> <p>チョウチョウウオに似るが、頭部にある白帯が折れ曲がっている。日本ではあまり見られない。 ● 南日本の太平洋岸、琉球列島 ● 約20cm</p> <p>白帯が折れ曲がる</p>  <p>斜めに点状の斑が入る</p>	<p>ミゾレチョウチョウウオ <i>Chaetodon kleinii</i></p> <p>大きな群れで岩礁をつつきながら、移動する姿がよく見られる。幼魚は夏に伊豆でも見られる。 ● 南日本の太平洋岸、琉球列島 ● 約18cm</p> <p>眼に黒い帯が入る</p>  <p>体側に網目模様が入る</p>

1. 似た魚を「くらべて」見分けられる

チョウチョウウオの仲間やハナダイの仲間といった分類をベースとして、ページごとによく似た種類は近くに並べて掲載。どこが違うのかを見分けるポイントがズバリ解説されているため、違いが一目でわかります。さらに、成長段階(幼魚・成魚)や性別で体色が異なるケースもしっかり網羅しています。

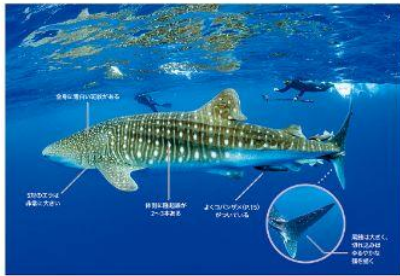
<p>スズメダイ <i>Thalassoma daniellii</i></p> <p>水深10m以上の岩礁やサンゴ帯で普通にみられ、大きな群れをつくる。スズメダイ科の中でも最も多岐にわたる。日本産種でも珍しくない。 ● 奄美群島・九州産種のほとんどは、伊豆半島、伊豆列島 ● 約15cm</p>  <p>腹側の黒帯が深部まで入る</p>	<p>クロロピンスズメダイ <i>Thalassoma caudatum</i></p> <p>水深20m以上のサンゴ帯で見られ、内海側の砂地帯に多く見られる。同属の魚種で最も美しい。産卵アクトン産魚のみ。 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>	<p>クマノミの仲間</p> <p>クマノミの仲間にはイソギンチャクと共生するが、イソギンチャクの毒に対しては、ふれるように徐々に免疫を獲得するとされている。飼育の観点から「ハナ、2クマ、3カク」の順に色むけで並べているタイプも多し。ここでは、日本に自然分布する6種を紹介する。</p>
<p>ナガサキスズメダイ <i>Romomys naganagisuzumai</i></p> <p>水深20m以上の岩礁やサンゴ帯に生息する。産卵アクトン産魚のみ。 ● 奄美群島・太平洋岸、小笠原群島、伊豆列島 ● 約12cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>	<p>マルスズメダイ <i>Romomys maru</i></p> <p>水深20m～40mほどのサンゴ帯やサンゴ礁に生息する。 ● 伊豆半島、奄美群島 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>	<p>カクレクマノミ <i>Acanthochromis nigrolineatus</i></p> <p>水深10m程度の、内海側のサンゴ帯に生息する。産卵アクトン産魚のみ。 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>
<p>ニセモンツクスズメダイ <i>Romomys nishimonzuku</i></p> <p>水深20～30mのサンゴ帯、産卵アクトン産魚のみ。 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>	<p>アサドスズメダイ <i>Romomys asado</i></p> <p>水深20m以上のサンゴ帯に生息し、産卵アクトン産魚のみ。 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>	<p>ハマクマノミ <i>Acanthochromis nigrolineatus</i></p> <p>水深10m程度の、内海側のサンゴ帯に生息する。産卵アクトン産魚のみ。 ● 約10cm</p>  <p>腹側の黒帯が浅い</p>
<p>68</p>	<p>69</p>	<p>69</p>

2. 生きている“リアルな色”がわかる！

水中写真家の堀口和重氏が日本全国の海で撮影した美しい水中写真を使用。標本を撮影した一般的な図鑑の写真と異なり、水中で実際に見られる状態に近い色合いなので、海の中で見た記憶や撮影した写真と照らし合わせやすくなっています。

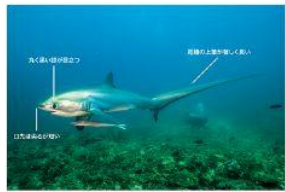
サメ・エイの仲間

軟骨魚類と呼ばれる大きなグループで、体の骨格が軟骨で形成されている。例外的なものが、船形や深窓型のサメの仲間と平べったいエイの仲間と大別され、世界中の海で100種以上が確認されている。日本近海で見られるサメは約130種、エイは約90種。



ジンベエザメ

世界最大の魚類で、主に熱帯アフリカに生息する。全世界の漁業で重要な魚種に分類し、特定の漁獲枠をもちょうと導入されている。
◎ 南日本の太平洋、インド洋、小笠原諸島
※ 1 - 2m



ニタリ

長い尾を持って魚の群れをまとめる。振り回して獲物を集めて食べる習性がある。南日本の近海や琉球列島で、冬は上旬以降が口ではなく尾を釣りに上げられていたという。背泳力の強く、海上に浮上する習性がある。
◎ 琉球列島一帯、伊豆、小笠原諸島
※ 1 - 2m



シロウニ

魚は必ずしも獲物でなくても食べておかない。夜になると浅所に泳ぎ回り、夜明けになると浅所に泳ぎまわります。小笠原の公島海浜には、年間を通してシロウニが繁殖する習性がある。
◎ 小笠原諸島
※ 1 - 2m



アカシュモクザメ

群れを上下左右に動かすことで獲物を集める。船が近づくと逃げ回る。スウェーデンやアイスランドでは多くの漁業と養殖の種として養殖されている。
◎ 南日本の太平洋、伊豆諸島、琉球列島
※ 2 - 3m

3. ダイバーが会おう約 550 種を厳選！

日本近海でダイビングをすると見かける機会の多い主要な海水魚、約 550 種を厳選して掲載。人気のクマノミやスズメダイの仲間から、冬の海を賑わせるダンゴウオの仲間まで、ダイバーが会いたい生き物をしっかりカバーしています。

ベニヒレイトヒキベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



クロヘリイトヒキベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



ハコベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁、高層の浅層で生息する。群れをつくる。地味で群れる。南日本の太平洋、伊豆、小笠原諸島、琉球列島
※ 約 10cm



キヌベラ

サンゴ礁や岩場に生息し、群れをつくる。水深 10m 以内の浅いサンゴ礁、高層の浅層で生息する。群れをつくる。地味で群れる。南日本の太平洋、伊豆、小笠原諸島、琉球列島
※ 約 10cm



オトメベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁、高層の浅層で生息する。群れをつくる。地味で群れる。南日本の太平洋、伊豆、小笠原諸島、琉球列島
※ 約 10cm



クギベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁、高層の浅層で生息する。群れをつくる。地味で群れる。南日本の太平洋、伊豆、小笠原諸島、琉球列島
※ 約 10cm



ホンベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



キュウセン

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



ニシキベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



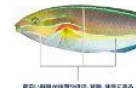
カミナリベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



アカオビベラ

水深 10m 以内の浅いサンゴ礁や岩場に生息する。数種は非常に美しい。
◎ 南日本の太平洋、琉球列島
※ 約 10cm



4. 幅広い海辺のレジャーに対応！

日本近海で見られる魚の多くを掲載していますので、ダイビングやシュノーケリングはもちろん、磯遊びや海釣りのお供にも最適です。

【目次】

エイ・サメの仲間／チョウチョウウオの仲間／キンチャクダイの仲間／ツバメウオの仲間／キントキダイの仲間／フエキダイの仲間／フェダイの仲間／イサキの仲間／タイの仲間／イトヨリダイの仲間／アイゴの仲間／ニザダイ・ハギの仲間／ハタの仲間／ハナダイの仲間／ホウボウの仲間／カサゴ・オコゼの仲間／メバルの仲間／アイナメの仲間／コチの仲間／クサウオの仲間／ダンゴウオ・ホテイウオの仲間／スズメダイの仲間／クマミの仲間／ギンポの仲間／ハゼの仲間／テンジクダイの仲間／ベラギンポの仲間／ベラの仲間／ブダイの仲間／トラギスの仲間／タカノハダイの仲間、テングダイ／ゴンベの仲間／カレイ・ヒラメの仲間／アジの仲間／カマスの仲間／サバの仲間／ヒメジの仲間／ヨウジウオの仲間／ネズヅボの仲間／ハタンポの仲間／ボラの仲間／アンコウの仲間／イトウダイの仲間／エソの仲間／ダツの仲間／ウツボの仲間／アナゴの仲間／ウミヘビの仲間／カワハギの仲間／モンガラカワハギの仲間／フグ、ハコフグの仲間／マンボウの仲間

【商品詳細】

書名:くらべてわかる海水魚

写真:堀口和重／文:山崎陽子・山本晴美・山本真紀／監修:本村浩之

定価:2,750 円(本体 2,500 円+税 10%)

発売日:2026 年 7 月 7 日

仕様:B5 判 144 ページ オールカラー

商品 URL:<https://www.yamakei.co.jp/products/2826063790.html>

【著者プロフィール】

■写真:堀口和重(ほりぐち・かずしげ)

日本の海の魅力を伝える水中写真家。ダイビングガイドを経て写真家となり、書籍出版や雑誌・Web・新聞など幅広い媒体で活動する。著書に『海のエイリアン図鑑』(山と溪谷社)、『深海魚に会える海』(フレーベル館)などがある。Nature Photographer of the Year 2022 入賞、Underwater Photographer of the Year 2026 Behaviour 部門優勝など、海外フォトコンテストで5年連続入賞を果たす。

■監修:本村浩之(もとむら・ひろゆき)

1973年、静岡県生まれ。博士(農学)。国立科学博物館、オーストラリア博物館を経て、現在、鹿児島大学総合研究博物館教授。専門は魚類分類学。著書に『ゆるゆる怪魚図鑑』(監修 Gakken)、『日本の深海魚図鑑』(共編著 山と溪谷社)などがある。

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:塚本由紀)を持株会社とするメディアグループ。「IT・デザイン」「音楽」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当:平野

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング
TEL03-6744-1900 E-mail: info@yama-kei.co.jp
<https://www.yama-kei.co.jp/>